

防災教育

只見町立明和小学校

ホームページ掲載資料

1 単元名 「わたしたちの暮らしと防災」

2 単元の目標

- 地域での災害の被害や対策を考える活動を通して正しい知識を身に付け、命を守るために主体的に考え、判断し、行動することができる。

3 単元構想 (総時数 17 時間 本時 4 / 17 時間)

- (1) 結プロジェクトに参加し、災害の怖さや備えについて考える。
- (2) 只見町で起こりうる災害について考える。
- (3) 実際に豪雨被害にあった方の話を聞き、災害の切迫した状況を知る。
- (4) 只見の降雪量を知り、雪が降って嬉しいことや困ることを考える。(本時)
- (5) 雪による災害にはどのようなものがあるか考える。(降る・積もる・溶けるの性質から)
- (6) 町役場の方に質問したいことを前時までの学習をもとに話し合う。
- (7) 町役場の方に実際の被害の状況や対策を聞く。
- (8) 金山町役場の方に実際の被害の状況や対策を聞く。(只見町との比較) ※フィールドワーク
- (9) ～ (12) 学習したことを班ごとにまとめる。(資料を使い、より深く学ぶ)
- (13) 学習したことを、発表を通して地域、保護者、全校生に伝える。(学習参観を活用)
- (14) 防災フォーラムに参加をして、他校の取組について学ぶ。
- (15) ～ (17) 防災を呼びかけるパンフレットを作る。

※学習発表会で防災学習について学んだことを劇化して発表。(学活、行事との関連)

4 本校の防災教育で身に付けさせたい力

- ① 災害発生メカニズムや地域の防災体制について理解し活用できる力。(知識・思考・判断)
- ② 自ら危険を予測し、自らの命を守り抜くために主体的に行動できる力。(危険予測・主体的な行動)
- ③ 進んで他の人々や地域の安全・安心のために役立つことができる力。(社会貢献・支援者の基盤)

5 単元について

○ 教材観

本校のある只見町は福島県の南西部、新潟県との県境に位置している。森林率 94% を越える山間地域であり、全国でも有数の豪雪地帯でもある。また、高齢化率 44% に上り少子高齢化が進む過疎地域である。

平成 23 年 7 月に発生した「新潟・福島豪雨」において、只見町では 4 日間で累計雨量 711mm、最大 24 時間雨量は 527mm を記録し、多数の家が浸水し、(橋の) 落橋が相次ぎ、道路も寸断されるなど大きな被害を受けた。また、昭和 38 年には「三八豪雪」と呼ばれる記録的な豪雪もあった。積雪が 4 m を超え、学校や公共の建物のほとんどの屋根が落ち、交通網やライフラインが寸断された。除雪作業中の事故など死傷者も発生するなどの被害も発生している。

一方、これらの豊かな自然は被害だけではなく、只見町にとって大きな恩恵も与えてくれる。只見町では毎年雪祭りを開催し、多くの人々が訪れ楽しむということ、アルペンスキーやクロスカントリースキーといったウィンタースポーツを楽しむこと、そして何より雪どけ水により全ての自然の源である豊富な水が確保できているなどといったことである。実際、只見町では、平成 18 年に「ブナと生きるまち 雪と暮らすま

ち」をまちづくりの理念にかかげ、平成 26 年には「只見ユネスコエコパーク」に登録されるなど、「自然と人々が共存できる町づくり」を大切にしている。

本単元を通して、6 年生では「豪雨災害について」、5 年生では「雪による災害について」学習し、災害に関する正しい知識を身に付け、自らの命を守るために主体的に考え判断し、行動できる子どもの姿をねらっていききたい。

## ○ 児童観

本学級は、男子 6 名、女子 11 名の計 17 名である。

子どもたちは全体的に素直であるが、受動的であるという課題があるため、子どもたちが企画し、運営する場面を増やしたり、主体的に活動している場面を学級便りなどで紹介したりし、称賛しながら主体性を育んでいるところである。また、登下校の様子などを見ると、スクールバスでの通学や地域の方々の見守りがあるため、自ら危険を予測し、主体的に行動しようとする心構えが十分ではないと感じる。地域の方々に見守っていただいていることを十分に自覚させて、感謝の気持ちを育むとともに、危機意識を高めていきたい。

「新潟・福島豪雨」当時、子どもたちは幼かったため、ほとんど記憶になかったようで、豪雨災害に関する知識や備えに対する意識が低い。また、雪についても小さい頃から身近なものであり、雪害に対する怖さなどはあまり感じていない様子である。

## ○ 指導観

学習する上で子どもたちが「学びたい」「生活に役立てたい」と思うきっかけが大切であると思う。また、前述したように、豪雨災害に関する知識や備えに対する意識は育っていない。また、雪についても小さい頃から身近なものであり、雪に対する怖さなどは感じていない様子である。そこで、実際に被災した方や町役場の方からお話を伺ったり、被災した現場を見たりすることで災害の怖さを実感させながら学習を進めていきたい。

具体的な活動内容としては、実際に町役場の方をお招きし、只見町の被害と対策の実態を伺う。さらに、只見町に隣接し豪雨被害で甚大な被害を受けた金山町に赴き、只見町の被害・防災状況との比較をさせたり、役場の方の講話やフィールドワークを通して当時の災害の様子や復興への取り組み方などを肌で感じさせたりしたい。

そして、最終的には学習したことを学習発表会で発表したり、パンフレットにまとめたりして家族や地域に発信できるような学びにさせたい。

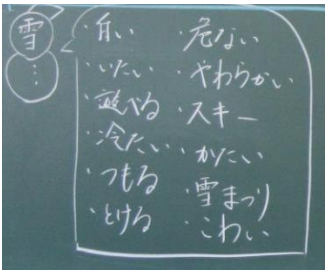


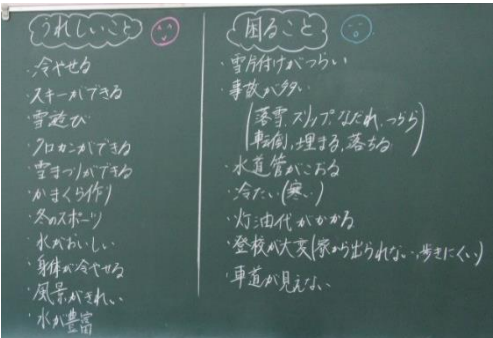


このような活動を通し、災害に関する問題を自分のこととして捉え、友達や地域の方々と協力して防災について考えることが、ESD がねらう学力でもある「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ力」を育むことになると思う。また、平成 26 年に「只見ユネスコエコパーク」に登録された故郷についての学習を通して「より地域を知り、自然とのよりよい共生」を考えることで、「地域を愛し誇りに思う子どもの育成」にも繋げていきたい。

## 6 本時の指導について

### (1) 本時のめあて

只見町の降雪量を知り、雪が降って嬉しいと感じることや困ることを話し合うことを通して、雪の災害や恩恵について考えることができる。

(2) 授業の実際

段階	学習活動・内容	時間	○支援・留意点 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span> ☆問題解決の力を育てるために	
導  入	<p>1 それぞれが抱いている「雪」に対するイメージを考え、発表する。</p>  <p>2 只見町の雪が1年間で大体どのくらい降るのかわかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の身長は超えないだろう。</li> <li>ブランコがほとんど埋まっていたから・・・</li> <li>こんなに雪が降る地域なのか。</li> </ul> <p>3 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>雪が降って嬉しいことや困ることを考えよう。</p> </div>	<p>4</p> <p>3</p> <p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 考え、発表しやすい内容にすることで、学習への意欲付けと方向付けを図る。</li> <li>○ 平均的にどのくらいかということ伝える。</li> <li>○ 屋根雪の落下などの高さでなく、平地に積もる量だということを確認させる。</li> <li>○ イメージしやすいように、実際の長さ(234.5cm)の紙テープを用意して、提示する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 雪が好きかどうか挙手させることで、めあてである「嬉しいこと、困ること」につなげさせる。</li> </ul>	
	展  開	<p>4 雪が降って嬉しいことや困ることを考える。</p> <p>5 友達と考えたことを伝え合う。</p>  <p>6 全体で発表し、考えを確認する。</p> 	<p>10</p> <p>8</p> <p>15</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ ワークシートに書かせることで、じっくりと考える時間を確保し、考えを可視化させる。</li> </ul>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>雪が降って嬉しいことや困ることを考えることができている。(活動観察・ワークシート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童から出てきた考えに対し具体的場面を問うことで、よりイメージしやすくさせる。</li> <li>○ いくつか画像を用意しておき、実際に見せることでイメージがわきやすくさせる。</li> </ul> 
		終  末	<p>7 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の振り返りをする。</li> <li>次時への見通しをもつ。</li> </ul>	<p>3</p>

## 7 板書計画

<p>わたしたちのくらしと防災</p> <p>☉のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・こわい</li><li>・寒い</li><li>・白い</li><li>・雪合戦</li><li>・スキー</li></ul> <p>雪が降って嬉しいことや困ることを考えよう。</p>	<p>うれしいこと</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・スキーができる</li><li>・雪合戦ができる</li><li>・雪遊びができる</li><li>・</li><li>・</li><li>・</li><li>・</li></ul>	<p>こまること</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・寒い</li><li>・事故が増える</li><li>・登校が大変</li><li>・</li><li>・</li><li>・</li><li>・</li></ul>
---	--	---

## 8 本時における成果と課題

- 災害の怖さを感じさせることもねらいの一つではあるが、前時までに既にそれを感じていた児童もいた。そこで、導入の段階で「雪に対するイメージ」という簡単な内容をたくさん発表させたことで児童が学習に取りかかりやすくなった。また、板書の際に雪だるまの絵を描いたことで、楽しい雪遊びのことがたくさん浮かんできた様子であった。
- 一人一人に考えさせる時間を多く確保したことで、各自がじっくりと考えることができていた。しかし、一人で思い浮かぶことには限界があったが、友達と交流させたことで多様な意見に触れさせることができた。
- 雪が降って嬉しいことに「水が豊富」という考えが出た。このことについて「どういうこと？」と担任が切り返すと、「雪がとけたら水になるから、只見には水が多くある」「あっ！ダムがあるじゃん！」というように雪による町全体が受けている恩恵についても考えることができた。
- 雪が降って困ることについて考えた際に、「事故が多い」という意見が多く出された。どのような事故かどうか児童に聞くと、道路での事故や建物近くでの事故など、詳しい事故について知っている児童が多かった。このことに触れて次時の内容である「雪による事故にはどのようなものがあるか」に繋げられた。
- 子どもたちから雪どけ水が暮らしを支えているということが出たから良かったものの、出なかった時に、本時または単元のどの位置で我々が雪から受けている恩恵にどのように気付かせるか、という想定をしていなかった。
- 後半で写真を見せながら展開できたから良かったものの、活動内容が単調であったため、授業が間延びしていたように感じる。児童が活動的でより深く雪について考えられる手立てが他にあったか考える必要がある。
- 使用した写真が只見（明和）のものであると、本時のねらいにより近づけたと感じた。学校にある写真データに資料がなかったためあきらめてしまったが、地区の方に資料提供をお願いするなどしてそろえるべきだったと反省している。

# 平成29年度 防災教育の取組

只見町立明和小学校

# 本校の防災教育の目標

自らの命を守り抜くために主体的に行動することのできる  
児童を育成する

- ①災害発生メカニズムや地域の防災体制について理解し活用できるようにする。(知識・思考・判断)
- ②自ら危険を予測し、自らの命を守り抜くために主体的に行動できるようにする。(危険予測・主体的な行動)
- ③進んで他の人々や地域の安全・安心のために役立つことができるようにする。(社会貢献・支援者の基盤)

# 学年別 防災教育指導目標

低学年	中学年	高学年
<p>①地震や水害の発生のメカニズムやそれらに備えた地域の防災体制があることを理解できるようにする。</p> <p>②災害発生時には、教員や大人の指示に従うなど、適切に行動できるようにする。</p> <p>③災害発生後には、進んで家の手伝いをするなど、家族の役に立つことができるようにする。</p>	<p>①地震や水害の発生のメカニズムやそれらに備えた地域の防災体制があることを理解し、活用できるようにする。</p> <p>②災害発生時には、教員や大人の指示に従うとともに、状況に応じて自らの命を守るために適切に行動できるようにする。</p> <p>③災害発生後には、進んで家族や友だちなどみんなと協力して助け合うことができるようにする。</p>	<p>①地震や水害の発生のメカニズムやそれらに備えた地域の防災体制の仕組みや役割を理解し、活用できるようにする。</p> <p>②災害発生時には、自ら危険を予測し、自らの命を守り抜くために主体的に行動できるようにする。</p> <p>③災害発生後には、家族や友だち、周囲の人々と助け合うとともに、ボランティア活動に進んで参加できるようにする。</p>



# 方針

- ① 地域の特性を生かした防災学習の展開(知識・思考・判断)
- ② 体験的学習の重視・関係機関との連携(危険予測・主体的な行動)
- ③ 地域への情報発信(社会貢献)

ESDとの関連

より明和を知り、自然とのよりよい共生を考える

只見愛

地域を愛し誇りに思う子どもの育成

# 実践概要

- 6月23日 結プロジェクト
- 6月27日 明和発見タイム
- 6月30日 起震車体験
- 9月 8日 5・6年合同ガイダンス
- 9月12日 5年町役場雪害対策担当者をGTする授業
- 9月27日 金山町見学
- 10月28日 学習発表会
- 11月 1日 防災学習発表会
- 11月 8日 6年生対話型授業の実践
- 11月15日 防災フォーラムへの参加

# ① 地域の特性を生かした防災教育の展開

## 学習テーマの決定

5年生

只見の豪雪による災害をテーマとして

- 雪害の種類や被害の実際
- 備えや対策
- 雪の有効利用

# ① 地域の特性を生かした防災教育の展開

6年生

平成23年新潟・福島豪雨の教訓を生かして

- 防災マップ作り
- 防災、減災について
- 被害の状況について

# ② 体験的学習の重視・関係機関との連携

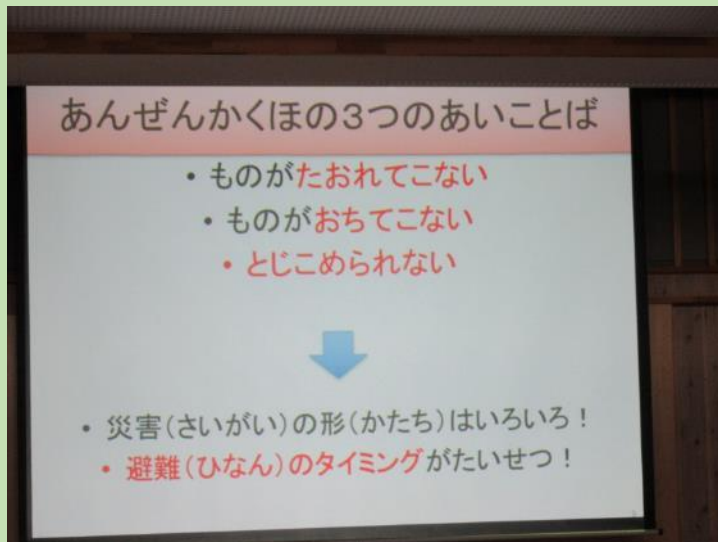
## 「結プロジェクト出前授業」(6/23)

東北大学 災害科学国際研究所 保田真理先生  
が進めているプロジェクト



学んだ新たな視点

- 自助・共助・公助というとらえ方
- 防災に加えて減災という考え方



# 「明和発見タイム」(6/27)

ブナセンター「ブナと川のミュージアム」にて新潟・福島豪雨の体験を聞き、避難するまでの切迫した当時の状況を知る。



身近な地域の土砂崩れの被害の大きさを改めて感じる事ができた。

# 「町役場、雪害対策担当の方の出前授業」(9/12)

只見町の雪はこんなに  
すごいんだよ  
(データを示しながら)

えーっ。やっぱりすごい

でもね、雪による被害は  
1, 2件あるかどうかだよ

どうしてだろう。どんな備  
えをしているの？

高齢者の世帯に除  
雪の補助をしたり

除雪をしてくれる方々は  
大変だと思う。ありがとう  
ございます。

除雪作業員さんは  
夜中から作業をしてく  
れています。

屋根の形が「へ」なの  
は屋根雪対策

そうなんだ。只見町の人  
さすがだなあ。

ゲストティーチャー  
町役場町民生活課 担当の方



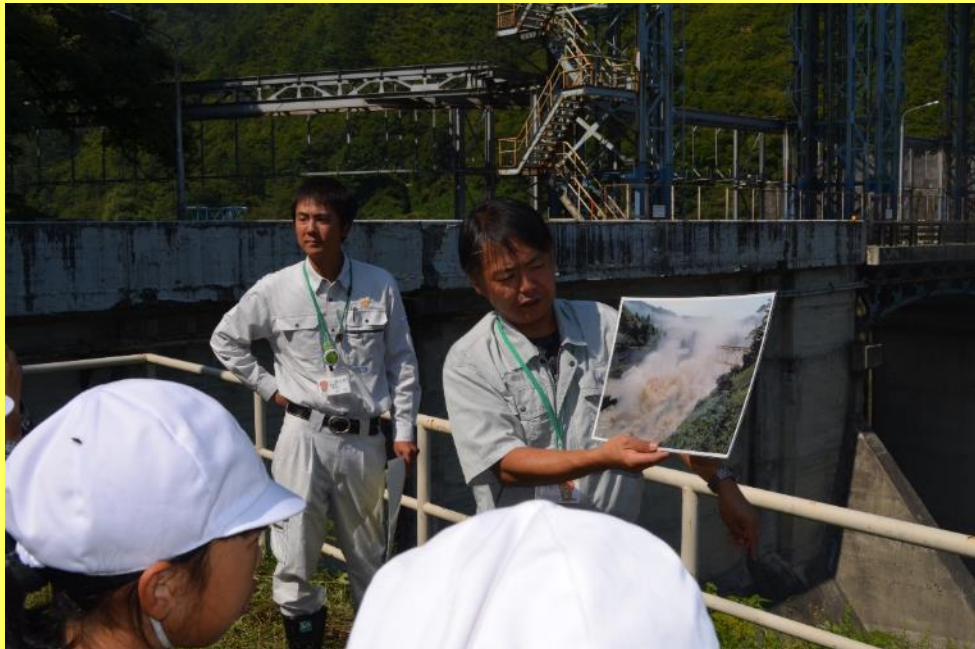
只見では雪を怖い存在だと思っている人は非常に少ないという話もお聞きした。

# 金山町を訪れて(9/27)

平成23年新潟・福島豪雨。

只見川の下流にあたる金山町は只見町とともにこの災害で甚大な被害を被った。JR只見線が寸断され、今尚、只見駅～会津川口駅間は寸断されバスの代替輸送となっている。

当時の様子や被害の状況、復興のあゆみ、今後の展望など現地で貴重なお話を伺うことができた。





## 児童の感想 お礼の手紙



〇〇さん 〇〇さんへ

先日はお忙しい中、雪の災害について教えていただきありがとうございました。

私は金山町の雪の災害を知らなく、只見のとなりで、雪が結構ふる位しが金山町の事を理解していませんでした。しかし二十七日の授業のおかげで、只見とのちがい、金山町での工夫など、多くの事が分かりました。

先日の授業では資料冊子も作っていただき、本当にありがとうございました。お仕事がんばってください。



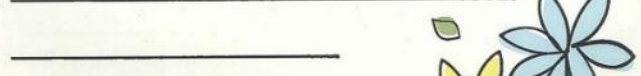
〇〇さんへ

先日はぼく達のために、災害についてたくさん教えていただきありがとうございました。

ぼくは、二人の話聞いて、平成23年新潟福島豪雨は、鉄やコンクリートで造った橋でも、あとがたもなく、無くなって200mも流される位、どこもひどかったのだと思います。さらに、1度災害が起きては、直すのにとてもかかるので、大変だと思います。これ

これからもお仕事がんばってください。

明和小学年 〇〇



積雪量が多いのは只見町。  
雪対策も2つの町で比べることができた。

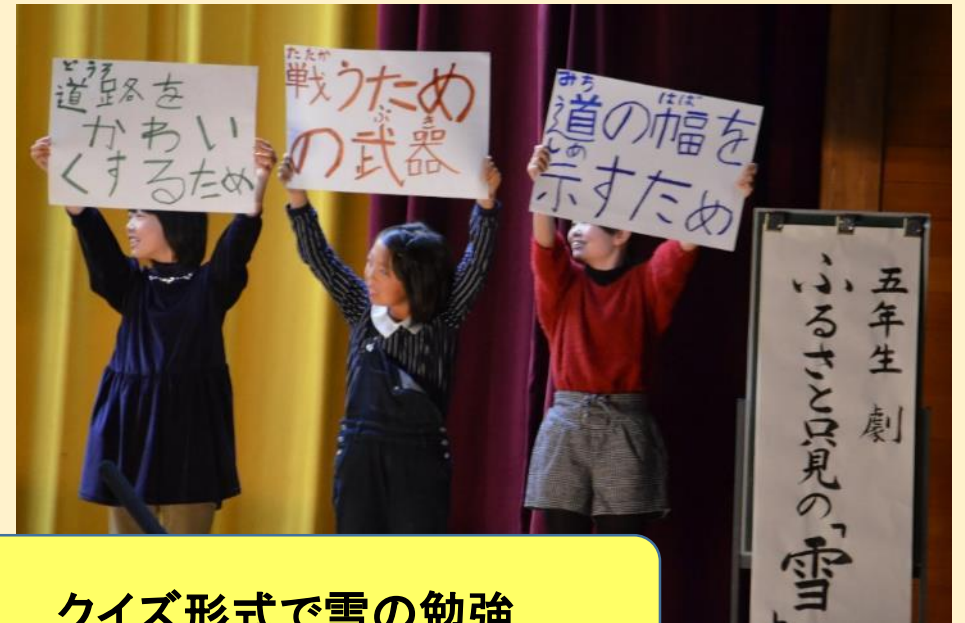


### ③ 地域への情報発信

学習発表会(10/28)

## 5年生 創作劇「ふるさと只見の雪」

役場の方になりきって、屋根の形の意味を説明



クイズ形式で雪の勉強

最後は、雪のすばらしさも再確認

# 6年生 創作劇 「未来へ 自然と共に」



カモシカやコウモリも登場



只見の豊かな自然と人間のよりよい共生のあり方を考えさせる内容でした。

# 防災学習発表会(11/1)

自由参観日に行った。

5・6年生が6つの班に分かれて、ポスターセッション形式で学習内容を発表した。

## 各班の発表テーマ

- 1班(6年) 防災マップ作り
- 2班(5年) 人為的被害や対策、雪の防災全般(雪)
- 3班(6年) 新潟・福島豪雨の被害の大きさ
- 4班(6年) 防災・減災について
- 5班(5年) 建物に関係のある被害と対策(雪)
- 6班(5年) 道路に関係のある被害と対策(雪)





雪国の建物には工夫が  
されているよ。

下学年や保護者の方、地域の方を招いて、明和防災マップを紹介しました。マップ作りをしている中、**小さい子ども**や**お年寄り**にとって避難所が**遠い場所**もあると感じました。



# 放射線・防災教育フォーラムに参加して(11/15)

三春町にある環境創造センターにおいて開催された。県内の7つの実践協力校が参加した。

本校からは5・6年生児童が参加した。

## プログラム

- 1 フォーラム ～今、自分が思うこと～
- 2 炊き出し試食体験
- 3 関係機関による体験・展示コーナー



# 1 フォーラム ～今、自分が思うこと～

各校代表者がパネラーとなり、  
ディスカッション形式で行われた。



## 本校代表児童の まとめの発言



- 「**ぼくらの明和防災マップ**」をより多くの人に知ってもらい、同じ地区に住む人たちと災害や避難について一緒に考えたい。
- **地域のことを知ることが防災・減災にもつながる。**  
→もっと地元のことを知りたい。  
(明和小は今年『ユネスコスクール』に登録)

自然と人間が  
共生できるような  
「防災・減災」



# 只見の冬



校庭のブランコも...



除雪の毎日



雪まつり



スキー場ではなく校庭

## 2 炊き出し試食体験



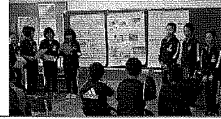
### 3 関係機関による体験 展示コーナー



# 児童の感想

## 防災学習を通してわかったこと(箇条書きでOK)

- ・災害をおさなため工夫(雪)
- ・災害はいつおまるかわからない。
- ・えなえがしっかりしてある。
- ・なせへ<sup>へ</sup>の字方のやねがあるかあかった。
- ・只見でふった14月のかこNO1のふたりよう。



## 防災学習を通して考えたこと

1つ目は、防災学習を通してわかったことは2つあります。

1つ目は、災害は無くしたとはできないが、被害を少しでもふせぐことはできるということです。

2つ目は、雪は悪いこともあるが良いこともたくさんあるということです。

雪についてしるべいく中で「雪は悪いことがたくさんある」というイメージが出るようになったけれど、良いことについてしるべるとたくさん出たので、雪は悪いこともあるが、良いこともあるというイメージにかわりました。

災害を減らし、自然と共に暮らす。まさに只見のすごし方だね。

## 防災学習を通してわかったこと(箇条書きでOK)

- ・災害は全部防ぐ事はできないが、<sup>減災</sup>減災する事はできる。
- ・只見では雪は多いが、雪への対策を<sup>と</sup>とっていて、そのおかげで雪の災害で亡くなったり人も少ない。
- ・雪は悪かたり、いい事もあるが、雪がふるおかげでできる物や雪で助けられている事もある。  
(ほうし線と同じ)
- ・<sup>ほうし線</sup>ほうし線は、X線けいになどで使われている。
- ・<sup>自助</sup>自助(自分を守る) 共助(家族を助る) 公助(おしよを助る)



## 防災学習を通して考えたこと

私は昔、防災・減災についてなんて、考えていませんでした。しかし、今回の防災学習のおかげで、自分の身近にある災害の事や、6年生が学習した豪雨について、その他にも、金山町の人や役場の方からたくさんのお話をいただきました。

そして今日、ゴッポラ福島で他校6校の話を聞き、自分達が調べていなかった放射線や、私達が勉強した事を、より、もっと深く知る事もできました。それで、私はこう思いました。

防災は、自分が家族等、身近な人を、しっかり守ります。しかしそれで終わるのでなく、<sup>おしよ</sup>おしよの人も考えなければいけません。他校の人にも、言っていたように、災害時には想定外な事起こります。なのでそんな時どうしようもない様に、日々家族と防災について話し合ったり訓練をし、かり行く事が大切だと考えました。

すばらしい。自分だけでなく協力する姿勢、備えが大切だね。

# 成果と課題

## 【成果】

- ・ 防災に関して、自助・共助・公助など新たな視点、新たな知識を得て、防災に関して地域発信への意識が高まり、主体的に関わろうとする態度が育った。
- ・ ESDによるこれまでの学びを下地として、防災教育を展開することができた。ESDと防災教育が有機的に関連し、双方の目標へ迫ることができた。
- ・ 体験的活動を重視したことにより、災害の危険性を肌で感じることもできた。また、発表会などの経験は、児童のプレゼンテーション能力の向上につながった。

## 【課題】

- ・ 学年の系統性、または中学校までつながる防災教育の系統的なカリキュラムになるよう改善を図りたい。
- ・ さらに地域へ発信していくための在り方を工夫し、地域と学校が互いに有益である防災教育のあり方を探っていきたい。
- ・ 本校の防災マニュアルや避難訓練のあり方を検討し改善していきたい。
- ・ 津波や海難事故など自分たちの地域では起こりえない災害についても、いざというときに対応できる力を身に付けさせたい。